

夜間小児救急医療体制の確保に関する岡崎市の取組み

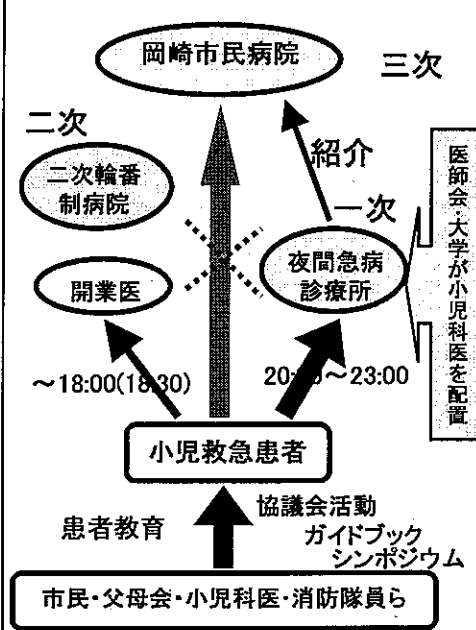
岡崎市の小児救急医療をとりまく状況

- ・ 関心高い市民(高学歴主婦の多い地域)
- ・ 開業小児科医十数名、高齢者もいるが地域医療には意欲的、医師会は夜間急病診療所と休日輪番制を運営
- ・ 市内の2次救急4病院にはいずれも小児科が無い
- ・ 市内には3次救急を担当する市民病院(650床)
- ・ 3次救急の市民病院の夜間に軽症の患者が多数受診し、3次救急機能を圧迫
- ・ 市民の小児夜間救急の充実を望む要望(署名、市議会)

保健所による調整

- ・ 平15～意見交換会、市議会各党派への説明、平16～夜間急病診療所に毎日20時～23時小児科医による診療を追加
- ・ 平16～小児救急医療対策協議会を設置(医師会、大学、市民公募、幼稚園保育園父母会代表等で構成、事務局は保健所)、毎年本会議及び作業部会を各2回程度開催
- ・ 「子どもの急病！ガイドブック」を発行し、ファーストエイドについて啓発
- ・ 「どうしたらいい？子供の救急」シンポジウムを開催、育児支援の必要性を打ち出しつつ、3次機関、開業医、救急隊員が実情と望ましい受診姿勢について啓発、保護者代表も「救急医療機関は、夜間に診察をしているところではない」「このままでは、救急医療機関がパンクする」「私達、保護者にもできることがある」と発言

岡崎市小児救急体制



岡崎市医師会公衆衛生センター夜間急病診療所

年度	平15	平16	平17
受診者	3,742人	6,758人	7,275人

岡崎市民病院救急外来、夜間急病診療所別小児科受診者数(20時～23時台)

